

デジタルトランスフォーメーション

授業の目的

大規模な集客を実現する方法やより多くの収益をあげる方法、業務を効率化する方法など、デジタル技術をビジネスに活用する方法を考えられるようになる。

科	就職スペシャリスト科	教員	鈴木 佑輔
コース		教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

- DX の根幹となる逆算の考え方をを用いて、様々な企業のケースを説明することができる。
- DX がビジネス改革だということを、具体的な例を挙げながら説明することができる。
- ホームページとソーシャルメディアを活用し、潜在顧客に自社製品を認知してもらうための情報発信ができるようになる。
- 商品を遠くに早くたくさん売ることができる EC プラットフォームを活用するメリットについて理解を深められるようになる。
- 取引から在庫管理・売上管理を一元化できる POS レジアプリを活用するメリットについて理解を深められるようになる。

授業計画

前期

- 第 1 回 オリエンテーション、現代ビジネスのキーワード「DX」とは何か
「デジタルトランスフォーメーション」という言葉の意味と、登場した背景を知る。
身近に触れることもある Netflix、Spotify、Airbnb、Uber、メルカリなどのサービスを例に、DX と呼ばれる代表的な取り組みとその意義について知る。
- 第 2 回 なぜ DX が重要かーニューノーマルとデジタルディスラプションー
新型コロナウイルスの流行前後でどのように社会の在り方が変わったか、
それにより私たちの社会生活はどういった変化を強いられてきたかを取り上げるとともに、
コロナウイルス流行後のニューノーマル時代でデジタル技術が果たす役割を知る。
またデジタル技術のをうまく活用できないことで市場を追われるリスクがあることを理解する。
- 第 3 回 逆算の思考法：バックカスティング／フォアカスティング
プロジェクトの進め方として、現在を起点にする考えと未来を起点にする考えの二つがあり、
フォアカスティングは短期的な、バックカスティングは長期的な課題解決に
それぞれ適していることを理解する。

その上で、DXにおいては理想を描いた上で適切なデジタルツールを選択できる
バックキャストイングの方が適していることを理解する。

第4回 DXのよくある失敗

金融系システムの統合や紙媒体とハイブリットになった行政のオンライン申請を例に、
長期的なゴールを明確にできず、目先の課題にとらわれたり
形式だけのデジタル技術導入を目指してしまうことでDXが失敗に陥ることを理解する。

第5回 売上を上げるためのDX：技術の開発と活用の違い

第1回で取り上げたようなドラスティックな変革を振り返り、
全く新しいシステムを生み出し業界を先導できる存在は一握りであることを理解する。
一方で、メディア発信、ECサイト参画、セルフレジ導入のように
既存のツールを適切に選択・導入し業務を効率化させることによって
小規模な企業組織であってもDXに成功できる事例があることを知る。

第6回 オウンドメディアの役割と特性：オムロン／キーエンス／サイボウズ

オムロン／キーエンス／サイボウズを例に、オウンドメディアの使い方として、
分かりやすく自社製品の特長を打ち出し購入への動線を強化する切り口と
多くの人の興味を喚起するコンテンツを契機に間接的に自社の認知を増やす切り口とがあり
その目的の違いによってどのようにHPの設計やデザインが変わるかを理解する。

第7回 HP制作ツールとアナリティクスについて

Google Site、ペライチ、WordPressを例に、コーディングせずにHP制作ができるツールの
それぞれの特色と具体的な機能について知る。

第8回 グループワーク：HP制作①（NJサイトコラム）

第9回 グループワーク：HP制作③（NJサイトコラム）

NEXTJAPAN サービスが外国人留学生から認知をより幅広く得られるためには
どのHP制作ツールを使ってどういった内容を発信したらよいか、
グループで議論し実際にページを制作する

第10回 フィードバック：数値解析

第8回～第9回の成果物に対してアナリティクスツールで解析を行い、
どういった結果が得られるかをクラスで共有するとともに、
そこからどういった課題が見えるか、それを解決するにはどういった打ち手があるか議論する。

第11回 SNSマーケティング 各メディアの特徴：

ドミノピザ（Facebook）、ライオン（Twitter）、コクヨ（Instagram）
ドミノピザ、ライオン、コクヨの運用を例にFacebook、Twitter、Instagramがそれぞれ
どういった内容をどういったターゲットに発信するのに適したツールかを理解する。

第12回 グループワーク：SNS配信①

第13回 グループワーク：SNS配信②

それぞれの学校が外国人留学生から認知をより幅広く得られるためには
どのSNSツールを使ってどういった内容を発信したらよいか、
グループで議論し、担当教員のチェックを通したうえで実際に発信を行う。

第 14 回 フィードバック：数値解析
第 12 回～第 14 回の成果物に対してアナリティクスツールで解析を行い、
どういった結果が得られるかをクラスで共有するとともに、
そこからどういった課題が見えるか、それを解決するにはどういった打ち手があるか議論する。

第 15 回 試験

第 16 回 試験返却

第 17 回 再試験

後期

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 前期の復習、逆算の思考法

第 3 回を中心に、第 1 回～第 4 回の内容を再度振り返り、定着度をチェックする。

第 3 回 E コマース：既存 EC サイトの活用

実店舗と EC サイト、またモール型 EC サイトと自社サイト型 EC サイトについて、
それぞれを比較し互いのメリットデメリットについて理解する。

また小規模な企業組織にとっては既存モールの知名度や集客力を活かせるという意味で
モール型 EC サイトを用いるメリットが大きいことを理解する。

第 4 回 グループワーク：EC サイト活用事例調査

第 5 回 グループワーク：EC サイト活用事例発表

実際にモール型 EC サイトを活用して売上向上に成功した企業の事例をグループで調べ
それぞれの企業がどの特徴に注目してそのサイトを選定し、
結果としてどういった課題をカバーすることに成功したかを軸に発表を行う。

第 6 回 ケースワーク：EC サイトの活用による改善提案

第 7 回 ケースワーク：EC サイトの活用による改善提案発表

モール型 EC サイトを活用することで売り上げの改善が図れると思われる業態やサービスを
グループで見つけ、具体的にどんなサイトを用いて業務を改善するかを発表する。

第 8 回 E コマース 発表フィードバック・復習

第 9 回 POS システム：顧客情報の分析

第 10 回 POS レジアプリ デモンストレーション

全サービス無料の「Air レジ」を用い、

一般的に POS レジアプリにどのような機能が備わっているかを理解する。

第 11 回 POS データを活用するための分析手法

サンプルデータを用意し、スプレッドシートを用いて

ABC 分析、トレンド分析、バスケット分析、RFM 分析のシミュレーションを行う。

第 12 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案

第 13 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案

第 14 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案発表

POS レジアプリを活用することで売り上げの改善が図れると思われる業態やサービスを

グループで見つけ、具体的にどういった運用を行えば業務を改善できるかを発表する。

第 15 回 POS システム 発表フィードバック・復習

第 16 回 試験対策

第 17 回 試験

第 18 回 試験返却

第 19 回 再試験

授業の方法

講義、ケーススタディ、グループワーク

教材

自作教材を使用する

- ・ Twitter, LINE, Instagram, Tiktok
- ・ ペライチ / Google site / WordPress
- ・ モール(amazon, 楽天), ショッピングカート ASP, CMS パッケージ
- ・ Air レジ

<参考書>

岡嶋裕史『プログラミング教育はいらない GAF A で求められる力とは?』(光文社、2019)

岡嶋裕史『実況! ビジネス力養成講義 プログラミング/システム』(日本経済新聞出版、2022)

小川卓『「やりたいこと」からパッと引ける Google アナリティクス 4 設定・分析のすべてがわかる本』(ソーテック社、2022)

評価の方法

期末試験 60%、グループワーク 40%

グループワークについては成果物をもって評価する。

授業外での学習方法

1. 日々のニュースを見て、企業の DX への取り組みについて情報を集めること。
2. 就職活動の一環として、志望する企業のホームページ等を見て、DX への取り組みを調べること。

実務経験と授業科目の関係

統計学

授業の目的

DX 人材として、ビックデータ等の活用をできる人材となるべく、基礎的な統計に関する知識を身に付け、教育用標準データセット (Standardized Statistical Data Set for Education; SSDSE) を用いてデータ分析の実践を行い、データ分析の一連の流れを習得する。

科	就職スペシャリスト科	教員	鈴木 佑輔
コース		教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

前期

- 平均や中位数といった記述統計により、グラフや統計量からデータの傾向を分析できるようになる
- SSDSE を用いた Excel の実践を通じて、提示された問題に対してヒストグラム・箱ひげ図を使用したデータ分析による考察を行えるようになる
- SSDSE を用いた Excel の実践を通じて、ヒストグラムや箱ひげ図の特徴を理解し、それぞれの長所・短所をあげることができる

後期

- SSDSE を用いた Excel の実践を通じて、提示された問題に対して外れ値・相関分析を使用したデータ分析による考察を行えるようになる
- SSDSE を用いた Excel の実践を通じて、インターネットによる情報収集によって、問題の原因や特性などを説明できるようになる

授業計画

前期：全 16 回 + 再試験

- 第 1 回 授業の目的、本講義の全体像
- 第 2 回 度数分布表
- 第 3 回 ヒストグラム
- 第 4 回 平均・中位数①
- 第 5 回 平均・中位数②
- 第 6 回 四分位範囲
- 第 7 回 箱ひげ図
- 第 8 回 実践 SSDSE 箱ひげ図・ヒストグラム①
- 第 9 回 実践 SSDSE 箱ひげ図・ヒストグラム②
- 第 10 回 実践 SSDSE 箱ひげ図・ヒストグラム③
- 第 11 回 実践 SSDSE 箱ひげ図・ヒストグラム④
- 第 12 回 実践 SSDSE 箱ひげ図・ヒストグラム⑤
- 第 13 回 まとめ・復習①
- 第 14 回 まとめ・復習②
- 第 15 回 全体復習
- 第 16 回 前期期末試験
- 第 17 回 前期期末試験返却・フィードバック

後期：全 18 回 + 再試験

- 第 1 回 前期の復習
- 第 2 回 外れ値
- 第 3 回 実践 SSDSE 外れ値①
- 第 4 回 実践 SSDSE 外れ値②
- 第 5 回 実践 SSDSE 外れ値③
- 第 6 回 相関と散布図①
- 第 7 回 相関と散布図②
- 第 8 回 前半のまとめ
- 第 9 回 実践 SSDSE 相関分析①
- 第 10 回 実践 SSDSE 相関分析②
- 第 11 回 実践 SSDSE 相関分析③
- 第 12 回 実践 SSDSE 相関分析④
- 第 13 回 実践 SSDSE インターネットを使った情報収集と特性の分析①
- 第 14 回 実践 SSDSE インターネットを使った情報収集と特性の分析②
- 第 15 回 実践 SSDSE インターネットを使った情報収集と特性の分析③
- 第 16 回 全体復習
- 第 17 回 後期期末試験

2024 年度

第 18 回 後期期末試験返却・フィードバック

第 19 回 再試験

授業の方法

講義

教材

・ 凶解 大学 4 年間の統計学が 10 時間でざっと学べる 倉田博史 著

・ 基礎テキスト はじめての AI リテラシー 岡嶋裕史・吉田雅裕 著

評価の方法

試験・レポート 70%、授業態度 30%

授業外での学習方法

Google フォーム、Google クラスルームを使用した学習等。

実務経験と授業科目の関係

サイバーセキュリティ

授業の目的

- 情報セキュリティリスクを排除したデータ運用ができる
- 情報セキュリティに関して、情報セキュリティ初級認定試験に合格できる知識を身に着ける。

科	就職スペシャリスト科	教員	大野 将之
コース		教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	98

目標

前期

- 情報セキュリティの目的とその種類を説明することができる
- 情報資産への脅威について理解し、その対策を挙げることができる。

後期

- 情報資産への脅威について理解し、その対策を挙げることができる。
- コンピュータの基礎知識を理解し、情報セキュリティ初級認定試験の「コンピュータの一般知識」の分野の問題が解けるようになる。
- リスクについて説明できるようになる。
- リスクアセスメントを行い、その対策を提案することができる。

授業計画

前期

- 第 1 回 授業の目的、本講義の全体像、情報セキュリティの概要
- 第 2～4 回 情報セキュリティの概要、問題演習
- 第 5～7 回 情報セキュリティの 3 要素、問題演習
- 第 8～10 回 情報に関する個人の権利と企業責任、問題演習
- 第 11～13 回 情報セキュリティ対策の概要、問題演習
- 第 14～16 回 情報セキュリティに関する法規・ガイドライン・認定試験など、問題演習
- 第 17～20 回 紙媒体の利用による脅威・その対策（グループワーク）、問題演習
- 第 21～24 回 物理的脅威と人的脅威・その対策（グループワーク）、問題演習
- 第 25～27 回 災害・大規模障害に関する脅威・その対策（グループワーク）、問題演習
- 第 28～30 回 コンピューター利用上の脅威・その対策（グループワーク）、問題演習
- 第 31 回 前期復習
- 第 32 回 試験
- 第 33 回 試験返却・フィードバック

第 34 回 再テスト

後期

第 1～4 回 インターネット利用上の脅威ととの対策・発表（グループワーク）、問題演習

第 5～7 回 外部からの攻撃、問題演習

第 8～11 回 電子媒体の利用に関する脅威・その対策（グループワーク）、問題演習

第 12～13 回 ソフトウェアに関する知識、問題演習

第 14～15 回 ハードウェアに関する知識、問題演習

第 16～17 回 OS とアプリケーションに関する知識、問題演習

第 18～19 回 ネットワークに関する知識、問題演習

第 20 回 第 19 回までの振り返り

第 21～22 回 リスクとは、リスク特定、事例紹介

第 23～24 回 リスク分析・リスク評価、事例紹介

第 25 回 リスク対応、事例紹介

第 26～27 回 事例紹介、リスク対策について議論（グループワーク）

第 28～30 回 リスクアセスメント・リスク対応の実践（部屋の写真からリスクアセスメントを行う）、発表

第 32～34 回 リスクアセスメント・リスク対応の実践（リスクを考慮した社内レイアウト提案）、発表

第 35 回 試験対策

第 36 回 試験

第 37 回 試験返却・フィードバック

第 38 回 再テスト

授業の方法

講義、グループワーク

教材

参考書

- ・五十嵐 聡 (2021)『情報セキュリティ初級認定試験公式テキスト』技術評論社
- ・全日本情報学習振興協会(2016)『情報セキュリティ初級試験公式問題集』泰文堂
- ・岡嶋裕史(2021)『令和 04 年 情報セキュリティマネジメント 合格教本 情報処理技術者試験』技術評論社
- ・株式会社 IT グローバルブレイン(2022)『健全経営のためのセキュリティ対策最前線!! ~DX 時代に不可欠なリスクマネジメント』カナリアコミュニケーションズ
- ・中村 行宏 /若尾 靖和/林 静香(2021)『図解即戦力 情報セキュリティの技術と対策がこれ 1 冊でしっかりわかる教科書』技術評論社

参考文献

- ・令和 3 年秋 応用情報技術者試験午後 問 1 (2021r03a_ap_pm_qs.pdf (ipa.go.jp))
- ・社内レイアウト <http://www.roueitaisaku.info/officesecurity/person.html>

2024 年度

評価の方法

試験：70%、平常点：10%、グループワーク：20%

授業外での学習方法

日々のニュースを見て、企業の情報セキュリティに関する情報を集めること。

実務経験と授業科目の関係

経営学・プロジェクトマネジメント

授業の目的

企業のデジタル化に取り組む人材として、企業経営に関する基本知識を身に着ける。

また、IT パスポート試験の試験範囲のうち「ストラテジ系」および「マネジメント系」に関する内容を理解する。

科	就職スペシャリスト科	教員	鈴木 佑輔
コース		教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

【一年を通して】

- 各回のタイトルに現れる単語について、その意味を自分の言葉で説明できる。

【前期】

- 組織の基本構造をそれぞれ図示できる。
- 損益分岐点の意味と重要性を説明できる。
- 知的財産権を侵害する身近な例を挙げることができる。
- 規格の概念を自分の言葉で説明できる。
- 具体的なデータが与えられたときに、PPM 分析により状況の説明をすることができる。
- 授業で扱うシステムについて、それぞれのメリットを挙げることができる。

【後期】

- EC と実店舗販売の売り上げの特徴の違いを説明することができる。
- 情報システム戦略立案に必要なプロセスを簡単に説明することができる。
- システムの企画と開発をそれぞれステップに分解することができる。
- プロジェクトの3つの制約を挙げることができる。
- PMBOK の各知識エリアについて、対象と目的を説明することができる。
- サービスマネジメントとプロジェクトマネジメント、ファシリティマネジメントの違いを説明することができる。
- システム監査の目的を説明することができる。

授業計画

【前期】：全 16 回+再試験

第 1 回	授業の目的、本講義の全体像、経営・組織論	(Lesson01-01~04)
第 2 回	業務分析と問題解決	(Lesson01-05~06)
第 3 回	損益分岐点と財務諸表	(Lesson01-07~08)
第 4 回	知的財産権	(Lesson02-01~02)
第 5 回	セキュリティ・労働・取引関連法規・法律	(Lesson02-03~05)
第 6 回	標準化	(Lesson02-06)
第 7 回	経営戦略 SWOT/PPM	(Lesson03-01~02)
第 8 回	経営戦略関連用語	(Lesson03-03)
第 9 回	事業計画と経営管理システム	(Lesson03-04)
第 10 回	技術開発計画	(Lesson04-01)
第 11 回	ビジネスシステムとエンジニアリングシステム	(Lesson04-02-06)
第 12 回	情報システム戦略と業務プロセス	(Lesson05-01~02)
第 13 回	業務プロセス改善・ソリューションビジネス	(Lesson05-03~04)
第 14 回	システム活用促進と評価	(Lesson05-05)
第 15 回	前期期末本試験	
第 16 回	前期期末本試験返却・フィードバック	
第 17 回	再試験	

【後期】：全 17 回+再試験

第 1 回	オリエンテーション	
第 2 回	前期復習	
第 3 回	システム企画	(Lesson05-06)
第 4 回	企画と実施	(Lesson05-07~08)
第 5 回	システム開発技術と要件定義	(Lesson06-01~02)
第 6 回	システム設計とプログラミング	(Lesson06-03~04)
第 7 回	テストと運用・保守	(Lesson06-05~06)
第 8 回	ソフトウェアの開発モデル	(Lesson06-07)
第 9 回	プロジェクトマネジメントと PMBOK	(Lesson07-01~02)
第 10 回	タイム/リスクマネジメント	(Lesson07-03,06)
第 11 回	人的資源/コミュニケーションマネジメント	(Lesson07-04-05)
第 12 回	サービスマネジメント	(Lesson08-01~02)
第 13 回	サービスサポートとファシリティマネジメント	(Lesson08-03~04)
第 14 回	システム監査	(Lesson08-05)
第 15 回	内部統制	(Lesson08-06)
第 16 回	総復習	
第 17 回	後期期末本試験	
第 18 回	後期期末本試験・フィードバック	

第 19 回 再試験

授業の方法

講義

教材

生徒：基本的に用いず、板書での授業を行う。必要に応じて自作教材を使用する。

教員：高橋京介(2020)『いちばんやさしい IT パスポート絶対合格の教科書 + 出る順問題集』SB クリエイティブ株式会社

評価の方法

試験 70%、授業態度 30%

※IT パスポート試験合格者は点数にかかわらず試験点は満点とする。

授業外での学習方法

講義ノートを読み返して授業内容の復習をする。

また、「IT パスポート試験ドットコム」(<https://www.itpassportsiken.com/ipkakomon.php>)等の web サイトを利用して試験の過去問を解く。

実務経験と授業科目の関係

学校法人において、就職支援やアルバイト就労支援を、チームを率いて実施している。

アルゴリズム・データ構造

授業の目的

アプリケーション開発・運用・利用をマネジメント・評価する上で基礎となる、アルゴリズムの考え方を身につける。

科	就職スペシャリスト科	教員	津田 晴貴
コース		教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	98

目標

前期

アルゴリズムの基礎となる、「変数」と「配列」のデータ構造を理解できる。

流れ図/疑似言語の読み取りができる。

流れ図を用いて、記号が 10 個程度のアルゴリズムを記述できる。

後期

基礎的な探索アルゴリズム/整列アルゴリズムを理解できる。

流れ図を用いて、記号が 15 個程度のアルゴリズムを記述できる。

IT パスポート「アルゴリズムとプログラミング」分野の既習範囲において、8 割の正答率を達成できる。

授業計画

前期

第 1 週 オリエンテーション・コンピュータ基礎知識

第 2 週 アルゴリズムとプログラムの関係

アルゴリズムとは？プログラムとは？

- 第 3 週 良いアルゴリズムとは
分かりやすい/高速/効率的/再利用が容易
- 第 4 週 アルゴリズムの基本形/流れ図と疑似言語
制御構造/それぞれの書き方
- 第 5 週 変数(データ型/代入)
メモリ/変数の宣言
- 第 6 週 配列(参照)
データをまとめて使う方法
- 第 7 週 三角形の面積を計算する/データの大きさを判定する
四則演算/データを比較する/関係演算子
- 第 8 週 変数のデータを入れ替える
入替用の変数
- 第 9 週 フローチャート読み取り演習
定着度の確認
- 第 10 週 合計を計算する/最大値を探す
反復構造/変数の初期化/変数 i/無限ループ/暫定値の変数
- 第 11 週 フローチャート穴埋め演習
- 第 12 週 定番アルゴリズム
どのようなアルゴリズムがあるか?
- 第 13 週 探索アルゴリズム(線形探索法/概要)
アルゴリズムの内容を理解する
- 第 14 週 探索アルゴリズム(線形探索法/実装)
アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
- 第 15 週 前期期末試験
- 第 16 週 前期期末試験返却・フィードバック

第 17 週 再試験

後期

第 1 週 オリエンテーション

第 2 週 探索アルゴリズム(二分探索法/概要)

アルゴリズムの内容を理解する

第 3 週 探索アルゴリズム(二分探索法/実装)

アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる

第 4 週 探索アルゴリズム(ハッシュ探索法/概要)

アルゴリズムの内容を理解する

第 5 週 探索アルゴリズム(ハッシュ探索法/データの衝突)

同じハッシュ値が出たときの対応

第 6 週 探索アルゴリズム(ハッシュ探索法/実装)

アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる

第 7 週 整列アルゴリズム(単純選択法/概要)

アルゴリズムの内容を理解する

第 8 週 整列アルゴリズム(単純選択法/実装)

アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる

第 9 週 整列アルゴリズム(単純交換法/概要)

アルゴリズムの内容を理解する

第 10 週 整列アルゴリズム(単純交換法/実装)

アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる

第 11 週 整列アルゴリズム(単純挿入法/概要)

アルゴリズムの内容を理解する

第 12 週 整列アルゴリズム(単純挿入法/実装)

2024 年度

アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる

第 13 週 整列アルゴリズム(クイックソート/概要)

アルゴリズムの内容を理解する

第 14 週 整列アルゴリズム(クイックソート/処理の分解)

複雑なアルゴリズムを適切に分解する

第 15 週 整列アルゴリズム(クイックソート/実装)

アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる

第 16 週 後期試験対策

第 17 週 後期期末試験

第 18 週 後期期末試験返却・フィードバック

第 19 週 再試験

授業の方法

講義、問題演習

教材

伊東静香(2012)『アルゴリズムを、はじめよう』インプレス

評価の方法

期末試験 60%、授業態度 20%、課題学習 20%

授業外での学習方法

IT パスポート過去問道場(<https://www.itpassportsiken.com/ipkakomon.php>)

実務経験と授業科目の関係

プログラミング (JAVA)

授業の目的

Java 言語の基本的な構造と文法を身につけ、ソースコードを記述して簡単なプログラムを実行できるようになる。また、Java™プログラミング能力認定試験 3 級に合格できる知識を身につける。

科	就職スペシャリスト科	教員	大島 静流
コース		教員の實務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	147

目標

- ・演算子を用いた記述をし、コンピューターに計算をさせることができる。
- ・条件分岐を用いた記述をし、条件により出力結果が変わるプログラムを作成できる。
- ・配列を用い、複数のデータを扱うことができる。
- ・手続き型プログラミングと比較してオブジェクト指向のメリットを説明できる。

授業計画

前期

第 1 回 アイスブレイク、プログラミング体験、Java のしくみ

第 2 回 プログラムの基本構造① 用語

第 3 回 プログラムの基本構造② ソースコードの中身、演習問題

第 4 回 変数、変数宣言

第 5 回 データ型

第 6 回 データ型、演習問題

第 7 回 評価と算術演算子・代入演算子①

第 8 回 評価と算術演算子・代入演算子②

第 9 回 評価と算術演算子・代入演算子、演習問題

第 10 回 型の変換、条件式と論理演算子

第 11 回 型の変換、条件式と論理演算子、演習問題

第 12 回 命令実行の文

第 13 回 命令実行の文、演習問題

第 14 回 命令実行の文、演習問題

第 15 回 分岐構文

第 16 回 繰り返し構文

第 17 回 分岐構文・繰り返し構文、演習問題

第 18 回 配列

- 第 19 回 配列、演習問題
- 第 20 回 for 文
- 第 21 回 for 文、演習問題
- 第 22 回 for 文、演習問題
- 第 23 回 メモリ・null・ガベージコレクション、演習問題
- 第 24 回 メモリ・null、演習問題
- 第 25 回 メソッド (引数)
- 第 26 回 メソッド (引数)、演習問題
- 第 27 回 メソッド (戻り値)
- 第 28 回 メソッド (戻り値)、演習問題
- 第 29 回 メソッド (オーバーロード)
- 第 30 回 メソッド (オーバーロード)、演習問題
- 第 31 回 メソッドと配列
- 第 32 回 メソッドと配列、演習問題
- 第 33 回 メソッド、演習問題
- 第 34 回 複数クラスの開発、演習問題
- 第 35 回 複数クラスの開発、演習問題
- 第 36 回 パッケージと FQCN、演習問題
- 第 37 回 パッケージと FQCN、演習問題
- 第 38 回 コマンドプロンプトを使用してコンパイル・実行(単クラス)
- 第 39 回 コマンドプロンプトを使用してコンパイル・実行(複数クラス)
- 第 40 回 コマンドプロンプトを使用してコンパイル・実行(パッケージ)
- 第 41 回 コマンドプロンプトを使用してコンパイル・実行(パッケージ)
- 第 42 回 名前空間、API、演習問題
- 第 43 回 オブジェクト指向の考え方①
- 第 44 回 オブジェクト指向の考え方②
- 第 45 回 クラスとインスタンス
- 第 46 回 クラス型変数と参照・引数
- 第 47 回 コンストラクタ
- 第 48 回 has-a の関係・コンストラクタ、演習問題
- 第 49 回 前期期末試験
- 第 50 回 前期期末試験返却・フィードバック
- 第 51 回 前期期末再試験
- 後期
- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 オーバーライド、演習問題
- 第 3 回 継承
- 第 4 回 継承、演習問題

- 第 5 回 継承、演習問題
- 第 6 回 オーバーライド・継承の禁止
- 第 7 回 正しい継承・間違った継承
- 第 8 回 抽象クラス
- 第 9 回 抽象クラス、演習問題
- 第 10 回 インタフェース
- 第 11 回 多態性①
- 第 12 回 多態性②
- 第 13 回 カプセル化（アクセス制御）
- 第 14 回 カプセル化（getter/setter）
- 第 15 回 オブジェクト指向 まとめ
- 第 16 回 Object クラス
- 第 17 回 文字列表現
- 第 18 回 等値と等価
- 第 19 回 Object クラス・文字列表現・等値と等価、演習問題
- 第 20 回 静的メンバ
- 第 21 回 API を用いた文字列操作の一例（StringBuilder クラス）
- 第 22 回 正規表現
- 第 23 回 正規表現、演習問題
- 第 24 回 API（日付と時間）①
- 第 25 回 API（日付と時間）②
- 第 26 回 API（日付と時間）演習問題
- 第 27 回 コレクション
- 第 28 回 ArrayList
- 第 29 回 LinkedList
- 第 30 回 Set と Map
- 第 31 回 エラーと例外
- 第 32 回 例外処理
- 第 33 回 例外クラス
- 第 34～35 回 前半の復習
- 第 36 回 try-catch-finally 文
- 第 37 回 try-with-resources 文
- 第 38 回 スロー宣言と意図的な例外
- 第 39 回 ストリーム・データベースとクエリ言語
- 第 40 回 CUI と GUI
- 第 41 回 サブレット
- 第 42 回 Python とは
- 第 43 回 コンパイラ言語とスクリプト言語

2024 年度

第 44 回 静的型付けと動的型付け

第 45～49 回 プログラミング能力認定試験 3 級過去問題①～⑤

第 50～54 回 試験対策

第 55 回 後期期末試験

第 56 回 後期期末試験返却・フィードバック

第 57 回 後期期末再試験

授業の方法

講義、実践演習

教材

講義レジュメ

評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%

授業態度は、発問に対する反応や、演習への取り組みを総合的に評価する。

授業外での学習方法

Web サービス『dokojava』(<https://dokojava.jp/sources/Main.java>)を用い、その日学習した要素を盛り込んだ簡単なプログラムを自身で組み、実行する。

実務経験と授業科目の関係

キャリアデザイン

授業の目的

自分自身を理解した上で、自分の生き方・働き方について生涯を通じて考え、職業をはじめ人生の様々な場で自分の生き方・働き方を不断にとらえ直し、設計・再設計すること

科	就職スペシャリスト科	教員	谷山 丈慶
コース		教員の實務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

前期

- ・「働く意義・目的」を理解し、「社会の一員となり、社会の役割の一端を担う」ことを理解する
- ・自分がどういうところで働きたいか考察し、言語化できるようになる、
- ・自己理解を深め、卒業後のキャリアデザインを描くことができるようになる

後期

- ・就職活動への円滑な移行ができる「リテラシー」を理解する
- ・就職活動への主体的な行動を起こせる「コンピテンシー」を理解する
- ・卒業後の進路のために、いつ、何をすればよいか計画性を身につける
- ・15 回の授業後、履歴書を作成する技能を身に付ける

授業計画

前期

第 1 回	introduction キャリアデザインの必要性
第 2 回	日本の就労環境の変化Ⅰ（終身雇用と年功序列の崩壊）
第 3 回	日本の就労環境の変化Ⅱ（成果主義と有期雇用の広がり）
第 4 回	日本の就労環境の変化Ⅲ（フリーエージェント社会の到来）
第 5 回	キャリアデザインとエンプロイアビリティⅠ （キャリアステージとキャリアサイクルについて）
第 6 回	キャリアデザインとエンプロイアビリティⅡ（エンプロイアビリティの高め方）
第 7 回	就職活動に向けての計画作成
第 8 回	企業/業界分析（ケーススタディ）
第 9 回	企業/業界分析 業界（メーカー/商社/金融/サービス）
第 10 回	企業/業界分析 業界（メーカー/商社/金融/サービス）
第 11 回	企業別履歴書の作成
第 12 回	デジタルトランスフォーメーションⅠ（これからの日本の産業を考える①）

第 13 回	デジタルトランスフォーメーションⅡ（DX を取り入れている企業）
第 14 回	就職基礎能力の開発Ⅰ（SPI 試験対策①）
第 15 回	前期試験
第 16 回	試験返却・フィードバック
第 17 回	再試験
後期	
第 1 回	introduction 前期の復習と後期の進め方
第 2 回	就職基礎能力の開発Ⅱ（SPI 試験対策②）
第 3 回	就職支援ツールを使用した企業研究
第 4 回	キャリアビジョンと行動計画／文章の書き方①
第 5 回	キャリアビジョンと行動計画／文章の書き方②
第 6 回	ライフキャリアとは何か
第 7 回	個人のウェルビーイング
第 8 回	SWOT 分析
第 9 回	面接対策練習①
第 10 回	面接対策練習②
第 11 回	求人票のトピック①（企業紹介）
第 12 回	求人票のトピック②（企業紹介）
第 13 回	企業を知ろう（法律について（労基法など））/メンタルヘルスについて
第 14 回	卒業後の在留資格申請について
第 15 回	後期試験対策演習①
第 16 回	後期試験対策演習②
第 17 回	後期試験
第 18 回	試験返却・フィードバック
第 19 回	再試験

授業の方法

授業計画に従って、講義形式又はグループディスカッション、グループワークを行う。
グループワークではアクティブラーニングの一種である「チーム基盤型学習 Team-based-learning」を行う。

教材

主教材：なし

副教材：

村山昇(2018)「働き方の哲学 360度の視点で仕事を考える」ディスカヴァー・トゥエンティワン

坪谷邦生(2020)「図解 人材マネジメント 入門 人事の基礎をゼロからおさえておきたい人のための「理論と実践」100のツボ」ディスカヴァー・トゥエンティワン

岡 茂信(2020)「マイナビ 2022 オフィシャル就活 BOOK 内定獲得のメソッド 自己分析 適職へ導く書き込み式ワークシート (マイナビオフィシャル就活 BOOK)」マイナビ出版

評価の方法

学期末試験 80%、授業態度・課題等 20%

授業外での学習方法

復習：毎回授業の後は、どのような事を学んだのか振り返り、最終的に自分の言葉で人に説明できるようになる。

予習：ニュースから社会情勢を積極的に予習し、自己のキャリアビジョンに基づき、就職環境の理解に努めること。

実務経験と授業科目の関係

ビジネスマネジメント

授業の目的

ピープルマネジメントを理解する。

就職活動に必要な立ち居振る舞いを身につける。

1、2年次に学んだビジネスマナーを基に、接客場面での対応や待遇表現をスキルアップする。

ホスピタリティを理解する。

組織内で円滑なコミュニケーションが取れるようになる。

科	就職スペシャリスト科	教員	遠藤 慎二
コース		教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	49

目標

前期

- ピープルマネジメントを学び、自分の目標を意識して行動できる。
- 就職活動に必要な立ち居振る舞いができる。
- 場に合った正しい敬語を使うことができる。
- 待遇表現を身につけ、適した会話ができる。
- ホスピタリティを学び、就労・接客に活かすことができる。

後期

- 社内での様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れる。
- 『内と外』を理解し、敬語の使い分けができる。
- 相手に好感を持たれる電話応対ができる。

授業計画

前期：全 16 回 + 再試験

第 1 回 オリエンテーション（前期授業内容／授業の受け方／目標／評価について）

第 2 回 ピープルマネジメント

第 3 回 入退室

第 4 回 訪問

第 5 回 自己紹介・名刺交換

- 第 6 回 敬語発展①丁寧語
- 第 7 回 敬語発展②尊敬語
- 第 8 回 敬語発展③謙讓語
- 第 9 回 待遇表現（依頼／承諾）
- 第 10 回 待遇表現（許可／申し出）
- 第 11 回 待遇表現（感謝／おわび）
- 第 12 回 ホスピタリティ①迎える
- 第 13 回 ホスピタリティ②ご案内・誘導
- 第 14 回 ビジネスメール／LINE でのやりとり
- 第 15 回 前期のまとめ
- 第 16 回 前期期末試験
- 第 17 回 前期期末試験返却・フィードバック

後期：全 18 回 + 再試験

- 第 1 回 オリエンテーション（後期授業内容／目標／評価について）
- 第 2 回 前期の復習
- 第 3 回 入社から退社までのあいさつとマナー
- 第 4 回 説明を聞く
- 第 5 回 指示を受ける
- 第 6 回 共有・確認する
- 第 7 回 報連相①
- 第 8 回 報連相②
- 第 9 回 敬語復習①
- 第 10 回 敬語復習②（内と外の使い分け）
- 第 11 回 電話応対①（マナー／電話を掛ける／アポイントメントを取る）
- 第 12 回 電話応対②（電話を取る）
- 第 13 回 電話応対③（取り次ぐ）
- 第 14 回 社会人としての心構え
- 第 15 回 出会いと別れの挨拶（初出勤時／アルバイト退職時）
- 第 16 回 後期のまとめ
- 第 17 回 後期期末試験
- 第 18 回 後期期末試験返却・フィードバック
- 第 19 回 再試験

授業の方法

講義、画像・動画視聴、問題演習、発話練習、グループワーク、ロールプレイ

教材

参考教材

- 植木香・木下由紀子・藤井美音子（2018）『伸ばす！就活能力・ビジネス日本語力 日本で働くための「4つの能力」養成ワークブック』国書刊行会
- 林千賀・羽鳥美有紀・齋藤貢（2020）『おもてなしの日本語 心で伝える接客コミュニケーション 基本編』アスク出版
- 一般財団法人海外産業人材育成協会（2021）『ゲンバの日本語 基礎編』スリーエーネットワーク
- 小川誉子美・前田直子（2019）『日本語文法演習 敬語を中心とした対人関係の表現-待遇表現-』スリーエーネットワーク
- 松本節子（2022）『初級から超級まで STEP 式にほんご練習帳 敬語』株式会社ユニコム
- 三吉礼子・矢野清美（2004）『あなたの日本語に磨きをかける 敬語（初・中・上級）』専門教育出版

使用機材

プロジェクター、タブレット端末

評価の方法

期末試験 80%、授業態度 12%、課題 8%

期末試験はペーパーテストを実施する。授業態度は、授業・グループワークへの取り組みを総合的に評価する。

授業外での学習方法

仕事でよく使用する語彙と漢字の課題（プリント・タブレット端末）

実務経験と授業科目の関係

海外進出支援を業とする企業の取締役として、対外的な交渉などを執り行っていた。

ビジネスコミュニケーション

授業の目的

コミュニケーションを通して聞き手に悪い評価をされないようになる。

教員ではない人間（会社の人たち）から良い評価を受ける言葉が産出できるようになる。

科	就職スペシャリスト科	教員	桑原 未花
コース		教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	98

目標

前期

6. 会話をしていくなかで、正しい文法形式が何か判断する力を身に着ける
7. 文章の流れに合った文かどうかを判断することができる。
8. 統語的に正しく、かつ、意味が通る文を作成することができる。
9. 7月の日本語能力試験 N3 乃至 N2 に合格することができる。

後期

10. 前期を通して学んだ文法形式を使い、産出ができるようになる。
11. ビジネスの現場に必要な文法を身に着けることができる。
12. 統語的に正しくかつその場面にあった運用ができるようになる。
13. 12月の日本語能力試験 N2 に合格することができる。

授業計画

前期

- 第1回 アイスブレイク、授業の目標、評価の提示
- 第2～3回 並列
- 第4～5回 助詞
- 第6～7回 授受表現
- 第8～9回 尊敬語・謙譲語
- 第10～18回 JLPT 試験対策
- 第19～20回 尊敬表現・謙譲表現・丁寧表現
- 第21～22回 否定表現
- 第23～24回 仮定表現
- 第25～26回 複合動詞
- 第27～28回 自動詞と他動詞

2024 年度

第 29～30 回 前期末試験
第 31～32 回 前期末試験返却・フィードバック
第 33～34 回 前期末再試験

後期

第 1 回 アイスブレイク、授業の目標、評価の提示
第 2～6 回 前期の復習
第 7～8 回 結果・状態
第 9～20 回 JLPT 試験対策
第 21～22 回 受身
第 23～24 回 使役・使役受身
第 25～26 回 推量・伝聞
第 27～28 回 判断・義務
第 29～32 回 後期試験対策
第 33～34 回 後期末試験
第 35～36 回 後期末試験返却・フィードバック
第 37～38 回 後期末再試験

授業の方法

講義、演習

教材

主教材

許明子・宮崎恵子 (2017) 『レベルアップ日本語文法 中級』くろしお出版

副教材

松浦真理子 ask (2011 年) 『日本語パワードリル文法 N2/N3 文法』アスク出版

評価の方法

期末試験 80%、課題点 10%、授業態度 10%

授業態度は、発問に対する反応や、練習問題への取り組みを総合的に評価する。

授業外での学習方法

NHK NEWS WEB EASY のニュース原稿 1 本を選び直筆でノートへ書き写す。毎週提出。課題点とする。

実務経験と授業科目の関係

ビジネスライティング

授業の目的

- ・ ビジネスにおける事務作業が一通りできる。
- ・ メールを中心としたビジネス文書を読み、簡単な文書であれば作成することができる。
- ・ 自分の能力を客観視し、正しく計ることができる
- ・ 必要な学習を自分で見極め、自主的に学習ができる

科	就職スペシャリスト科	教員	津田 晴貴
コース		教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

目標

前期

- ・ 自分の能力を正しくはかることで、自分に必要な自主学習を理解する
- ・ 正しい助詞、自動詞や他動詞の使い分けを理解し、簡単な文を書くことができる。
- ・ 副詞・接続詞・疑問詞の呼応を理解し、正しく使用することができる。
- ・ 文章の構成にあわせた接続詞・接続助詞を使用することができる。
- ・ 読みやすさに注意して適当な場所に句読点をつけることができる。

後期

- ・ 自分の能力を正しくはかり、自分に必要な自主学習ができる。
- ・ 副詞の呼応を理解し、正しく使用して文を書くことができる。
- ・ 文章の構成にあわせた接続詞を使用して文を書くことができる。
- ・ 読みやすさに注意して適当な場所に句読点をつけ文を書くことができる。
- ・ 読みやすい長さに気をつけて文を書くことができる。
- ・ お礼状を含む、就職活動に関するメールを書くことができる。

前期

第 1 回	オリエンテーション・評価方法・自主学習について
第 2 回	1 課：助詞の使い方
第 3 回	2 課：言葉の形の使い分け
第 4 回	3 課：自動詞・他動詞・受身

第5回	4 課：呼応 1 課～3 課
第6回	JLPT 対策
第7回	JLPT 対策
第8回	5 課：文末表現の調整
第9回	6 課：ひらがなと漢字のバランス
第10回	7 課：漢字の選択と誤変換 4 課～5 課復習
第11回	8 課：カタカナの使い方
第12回	9 課：読点の打ち方
第13回	10 課：書き言葉らしさ
第14回	期末試験対策：1 課～10 課復習
第15回	前期期末本試験
第16回	前期期末試験返却・フィードバック
第17回	前期期末再試験

後期

第1回	オリエンテーション・評価方法・自主学習について
第2回	前期の復習
第3回	「お礼状を書く」①
第4回	「お礼状を書く」②
第5回	11 課：辞書の危険性
第6回	12 課：専門用語の選び方
第7回	13 課：文の長さを読みやすさ
第8回	14 課：指示詞による文の接続
第9回	JLPT 対策
第10回	JLPT 対策
第11回	JLPT 対策
第12回	15 課：接続詞と文章の構成
第13回	16 課：読み手への配慮
第14回	「就職先へメールを書く」①
第15回	「就職先へメールを書く」②
第16回	期末試験対策：11 課～16 課復習
第17回	後期期末試験本試験
第18回	後期期末試験返却・フィードバック
第19回	後期期末再試験

授業の方法

講義、演習

教材

石黒圭・筒井千絵(2009.5)『留学生のための ここが大切 文章表現のルール』スリーエーネットワーク
笹森哲夫 (2017. 9)『ビジネス文書検定 実問題集』早稲田教育出版

評価の方法

期末試験 80% + 課外学習 10%、平常点 10%

期末試験は前期と後期の 2 回実施。

課外学習は、講師が週 1 回、Gmail でビジネス文書定型文を配信。学生は受信後、ノートに書き写し提出。

平常点は、授業に取り組む姿勢（傾聴、反応、出席等）を総合的に評価する。

授業外での学習方法

JLPT 対策や就職活動に伴う作文等、自分の能力にあった自主学习

実務経験と授業科目の関係